

都市の読解とそのおもな手がかかり (その3)

比較都市論 (その3)

3 複雑な城下町を考える

- ・ 守護所、戦国城下町から近世城下町へ
- ・ 武士の集住
- ・ 土地利用の分化
- ・ 防御的都市から交易的都市へ
- ・ 惣構堀から城を守る堀へ
- ・ 遠見遮断からグリッド都市へ
- ・ 城下町の立地、地形との応答関係
- ・ 街道との関係
- ・ 比較的時間をかけて徐々に形成された城下町
江戸、岐阜、金沢、大坂、松江、岡山、徳島、高知、熊本、鹿児島など
平地の小高い舌状台地の先端部が大半
- ・ 比較的短期間に形成された城下町
秋田、山形、仙台、甲府、富山、福井、静岡、名古屋、広島、高松、佐賀、大分など
台地の先端部のほか、まったくの平地も少なくない
- ・ 全体の論理と部分の論理
- ・ 計画都市としての個性
- ・ 多様な城下町

- ・ 城下町の近代化
- ・ 空閑地としての旧武家地
- ・ 城の破却、公有地化
- ・ 軍の進出
- ・ 堀の埋め立て
- ・ 県庁舎の立地
- ・ 駅の立地
- ・ 市庁舎の立地

金沢

- ・ 小立野台地の先端部、両側に浅野川と犀川、さらにその奥に卯辰山と野田山
- ・ 始まりは御坊と寺内町 (16世紀半ば) 尾山神社あたりが中心
- ・ その後、城下町へ、16世紀末から
- ・ 内惣構堀 (1599) と外惣構堀 (1610)
- ・ 内惣構堀の内側・内惣構堀と外惣構堀の間・外惣構堀の外側でことなる道路パターン
- ・ さらに方面別に異なる道路構成
- ・ 小さな単位の空間の集合体、ほぼ1世紀かけて都市が形成された
- ・ 55本の用水：総延長150km、大野庄用水 (1590)、辰巳用水 (1632)、鞍月用水 (1644-47)
- ・ 武家地の配置、加賀八家の分散配置
- ・ 戦略的な寺院配置と北国街道

- ・ 近代化のプロセス：尾張町から広坂へ、軍都 (第九師団、1897…) かつ学都 (四高、1887)
- ・ 桜橋 (1897) 犀川大橋 (1898、現在のトラス橋は1924)
- ・ 大手周辺が中心的オフィス街にならなかった
- ・ 駅の立地 (1898) と駅前道路の整備
- ・ 百件堀の道路への転用
- ・ 県庁舎 (1873) の駅西への移転 (2003)、跡地を公園に、県庁舎の一部 (2代目庁舎、1924) はしいのき迎賓館へ

熊本

- ・京町台地の先端部、茶臼山
- ・15世紀半ばにさかのぼる隈本城（現在の千葉城）：城郭の東隅
- ・のち16世紀初めに現在の古城あたりに移る：城郭の南西隅
- ・1588年に加藤清正が入城、古町に町人地を、新町に武家地を造った。その後、新町は町人地となる
- ・白川と坪井川の改修
- ・城は西が正面、東南側は閉じている。天守も東南隅

- ・近代化のプロセス：新町から古町へ、軍都（1871、鎮西鎮台→熊本鎮台→第六師団）かつ学都（1887、第五高等中学校、のち五校）
- ・西南戦争からの戦災復興による大規模な都市改造、武家地と町人地の区別の解消が進む
お城南側地区の軍用地化、鎮西鎮台の新設（市街地の南北分断）
上通・下通の商店街形成（いずれも武家地）
- ・辛島格市長による市街地整備（1903頃-1924頃）：軍用地の郊外移転・市役所・県民会館・辛島公園、花畑公園などへ
- ・第二次大戦の戦災復興：区画整理、銀座通りの整備、通町筋の中心市街地化、アーケード街の連続
- ・アーケード街の外側の近年の変化：アーケードの外側に新しい変化、シャワー通り、並木坂、上乃裏通り

鹿児島

- ・東福寺城、中世島津氏の拠点となる（1343）
- ・のち、清水城（1387頃）、内城（1550）、鶴丸城（1602）と南下し、山城から平城へ
- ・当初は稲荷川の河口、のち旧甲突川の河口の港町でもある
- ・甲突川の河川改修により、流路を南下させ市街地を南へ拡大した
- ・上町（かんまち）と下町（しもまち）
- ・武家地の軸線：鶴丸城と桜島を結ぶ
- ・町人地の軸線：石灯笼（いずろ）通り（江戸時代）
- ・海岸線に並行した広場場通り

- ・近代化のプロセス：市街地の南下、甲突川の右岸開発、戦災復興土地区画整理による高幅員道路
- ・朝日通り：近代最初の通り、旧県庁舎（現中央公園）から桜島へ向かう軸線
- ・駅の設置：鹿児島駅（1901）、武駅（1913、のち1927に西鹿児島駅と改称、2004より鹿児島中央駅）
- ・みなと大通り・ナポリ通・パース通り：戦災復興土地区画整理事業による
- ・新幹線の部分開通（2004）以降、鹿児島中央駅周辺に開発が集中